

# とらいあんぐる



2017 年 4 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「親の目、子の目」

先号で、母の認識と私の思いがくい違っていたエピソードを紹介させていただきました。

母は、私が小学校に行きたくない理由を、子どもじみた「わがまま」ととらえていたようです。

しかし私は、はっきりとした「使命」があって、小学校に行かない決断をしたのでした。

母は、幼い子どもは気まぐれで、その場その場で、考えや気持ちが変わるものにとらえていたようでした。

しかし私は、小学校に行くべきかどうかについては、長い長い時間をかけ

て検討を重ね、家族にどう切り出すかについても、主張が通りやすい場面と方法を、ずっと前から考え続けていました。

母は、その日、スエキさんのおばあちゃんがいた「偶然」に安堵し、喜んでいました。

しかし私は、これは「偶然」などではなく、完全に祖母の計略にひっかかったのだと感じました。この点については、私が正解であったと、今も思っています。

母は、スエキさんのおばあちゃんにほめられて、すっかりその気になって学校に行った私を、「子どもらしい」と、ほほえましく感じていました。

しかし私は、行かないとゴネるような子どもじみたふるまいができなかったため、しぶしぶ学校に行ったのでした。

時に、正反対です。

このように先号で、「私の小学校入学」という同じエピソードについて、母目線の語りと、私目線の語りを、比べてみたのですが、何人もの方に、「おもしろかった」とおっしゃっていただきました。

私と母は、特に意思疎通がうまくいっていた親子だったと思います。母の障害という特殊な事情から、かたときもはなれず、ずっとそばにいたからです。

それでも、これだけくい違うものなのです。



母と私は、親子で同じ、この「とらいあぐる」の紙面を使って、同じようにエッセイを書いています。それ自体、あまりないことだと思います。

母が書いている時代、私は基本的に、内容に介入することができませんでした。

そして今、私が書いている時代、母はもうこの世にいません。

いったもの勝ちです。

誰が本当のことを言っているのか、なかなか分からないミステリー小説のようです。

しかし、そんなものだと思います。

親の認識と子の認識は、えてしてくい違うものなのでしょう。

親と子で、認識がくい違う場面には、いくつかパターンがあるように思います。私が、よく感じるのは、次の3パターンです。

1つ目に、親は「子どもが子どもらしくあってほしい」と思う気持ちがあり、そのせいで、過剰に子ども扱いしてしまう傾向があるように感じます。これは、私の子ども時代、常に感じていたことでした。

子どもらしい、かわいらしいエピソード

ードは、おとなの大好物です。そのため、子どもらしい失敗談や笑い話は、長く語り継がれます。

しかし、そうなってくると、子どもの側でも、おとなが望む「子どもらしい自分」のイメージにあわせなくてはいけない気持ちが働いてきます。そうすると子どもは、実際以上に、子どもらしくふるまってしまうのです。

かくして、親の認識と子の認識のくい違いは、広がるばかりです。

一例ですが、私は幼稚園から小学校低学年の時代、「サンタさんを待ちわびる子ども」の演技を、必要以上に一生懸命、続けていました。私の中では、“クリスマスしばい”と呼んでいました。

“クリスマスしばい”をすると、母は笑いながらも、とても嬉しそうだったからです。「アツちゃんは、いつまでも子どもね」という母は、幸福そうで、私を見る目は慈しみにあふれていました。私は、母のその顔が見たくて、一生懸命、“クリスマスしばい”を続けていたのです。

“クリスマスしばい”に疲れてきた頃、母が「サンタさんの正体」を打ち明けてくれて、私は正直、ほっとして

いました。

「サンタさんの正体」を打ち明けたくんだりも、母が「とらいあんぐる」に書いています。私がお友だちの中で恥をかかないように、という配慮からだったようです。私にとってはもちろん、無用な配慮でした。

そんな例は、たくさんあります。

2つ目に思うことは、子どもはおとなが思うよりもずっと、理由をもって行動している、ということです。

おとなは、特に親は、「子どものすることにたいした理由はない」と思いがちです。「その場、その場の気分で行動している」とも思ってしまう。

それは、行動原理がおとなと違うために、理由なく行動しているように見えてしまうからでしょう。

しかし、たいてい理由はあります。ところがその理由も、おとなにとっては、つまらない理由であったり、おかしい理屈であったりするために、取り上げてもらえないのです。

そもそも「大事か」「つまらないか」の基準も、おとなと子どもでは違います。おとなからすると、「つまらないことにこだわって・・・」という時、子

どもは、重大な事情を抱えていたりします。

子どもを育てている方なら誰しも、「この子は、つまらないことをよくおぼえている！」と驚いた経験があると思います。おそらく、子どもにとっては、「つまらないこと」ではないのだと思います。

子どもは、案外、理由を持って行動し、一貫性もあるものですが、不幸なことに、おとなからはそう見えなため、くい違いがおこりがちです。

3つ目は、子どもであってもプライドがある、ということです。この点についても、残念ながら、おとなの目にはそのように見えなため、くい違いがおこります。

先日、電車の中で、私は興味深いできごとに遭遇しました。

夕方の満員電車です。車内は身動きができないほど混雑しています。

私から10メートルほど離れたところで、小さなお子さんが泣き出しました。混雑しているため、姿は見えません。

ですが声から、小さな男の子であることが分かります。

泣き声の音量は増すばかりです。逃げ場はありません。

ご一緒のご家族は、身を縮めているだろうな、と思うと、気の毒になりました。

1～2分ほど、泣き声が続いたところで、突然、泣き声がやみました。突然です。

そして数秒後、驚くことに、その男の子の声で、

「よんさいです」

ときこえたのです。はっきりとした口調です。

私は驚いて、耳をすましました。

おとなのヒソヒソ声がきこえた後、また男の子が

「はい！」

と、いったのです。

ついさっきまで大声で泣いていた子と思えない、しっかりしたお返事です。

おそらく近くにいたおとなの方が、泣いている男の子にむかって、「何オ？」とたずねたのでしょう。

男の子は、急によその人向きの顔になり、「よんさいです」となったのでしよう。“プライドスイッチ”が入った瞬間です。

私は笑いをかみころすのがたいへん  
でした。この、よそのおとなにだけ発  
動する“プライドスイッチ”は、私に  
も経験があります。

泣いている男の子を泣き止ませるの  
に、赤ちゃんをあやすような働きかけ  
よりも、プライドを刺激する働きかけ  
は、より有効だったといえるでしょう。

「よんさいです」と自分から申告し  
てしまった以上、もう赤ちゃんのよう  
なふるまいは、できません。

近くにいた方の機転に、感心しまし  
た。

そして、そうだった、子どもは誇り  
高い存在だった、と思い出しました。  
私も子ども時代、本当はやりたいこと  
であっても、プライドのためにガマン  
したことは、たくさんありました。

おとなは、その点を読み間違えがち  
です。「子どもは、人目を気にせず好き  
放題やっている」と考えてしまうと、  
くい違いは広がるばかりでしょう。

しかし、こんなふうには、まるで「子  
ども」を代弁するかのようには語って  
いる私も、「子ども」を卒業して数十年経  
つ人間です。

「子ども」のことを分かっていない

部分が、きっとたくさんたくさん、あ  
るのです。えらそうに語れる身ではあ  
りません。

私は今、「とらいあんぐる」を書き放  
題です。それこそ「いったもの勝ち」  
の状態になっています。

でもいつか、私が老いて「とらいあ  
んぐる」を書かなくなる日が来るでし  
ょう。

その時、さんざんエピソードに登場  
させている、娘のキョウコが、「とらい  
あんぐる」を書くのかもしれない。

その時、「母は、ああ書いていたけれ  
ど、あれは違う」と訂正してくれたら、  
楽しいだろうなあと思像するのです。

私は天国から、“答えあわせ”を見守  
りたいと思います。

(江口 彩子)



## ◆新年度の変更ご希望を受け付けています

新年度がスタートしました。

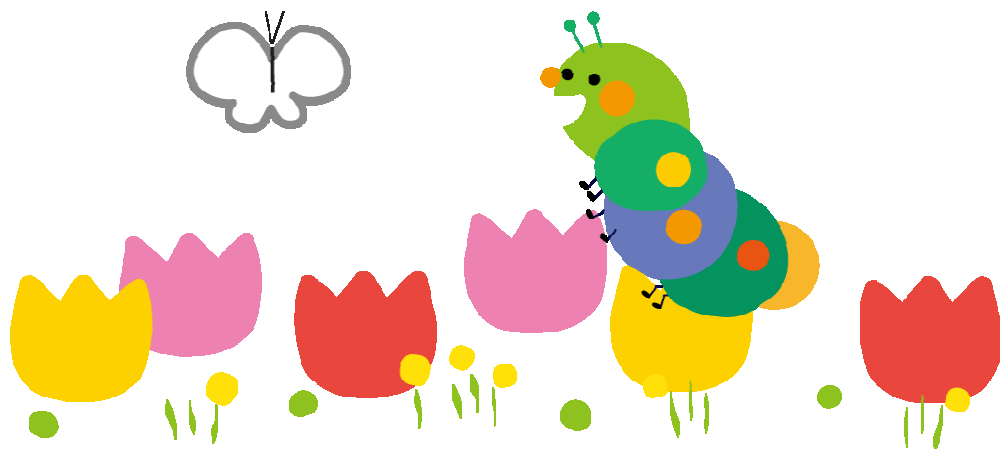
年度の変わり目には、曜日や時間、コースの変更をご希望いただき、新時間割作成のために、お時間やコースについて、たびたびご相談、ご連絡をさせていただきました。お忙しい中、多くの方が折り返しご連絡をくださり、ご家族の皆さまのご協力あって、無事、組み替え作業をすすめることができたと感じています。どうもありがとうございました。

さて、新しい時間割がスタートしました。新しい生活スケジュールは、いかがでしょうか。新時間割は、できる限り、皆さまのご希望にそってお組みしたつもりですが、新生活がスタートしてみると、生活のタイムスケジュールが思うようにいかないことも、しばしばです。もし、不都合が判明しましたら、レッスン時間の変更についてご相談ください。

レッスン曜日・時間等の変更は、なるべく早く、本部にお電話ください【本部：03-5966-7711（担当・伊藤、矢島）】。通常は10日〆切ですが、年度はじめてですので、4月17日（月）までに変更希望をおっしゃっていただければ、5月から新しいスケジュールでお受けになることができます。

ただし、年度がわりの変更と同様、曜日や時間帯を変更される場合、原則として担当も変わってしまいますので、その点はどうかご了承ください。

新しい先生、新しいお友だちとの出会いが、幸せなものでありますよう、願っています。



## ◆年間スケジュールをお配りしています

年間スケジュールが完成しました。この「とらいあんぐる」と同時にお配りしています。

今年最大の行事である「ピアノ発表会」は、8月4日（金）・5日（土）・6日（日）・7日（月）の4日間です。

久しぶりに、希望通りの日程で、会場をおさえることができたと感じています。暦が7月のうちは、学校の移動教室等の行事を重ねてしまうことがありましたが、今年はその心配が少ないと想像しています。

場所は、「アクトホール」です。一昨年の「ピアノ発表会」でも利用しましたが、一音会が、近年、もっとも多く利用しているホールです。駅からのアクセスが良いという利点があります。

「ピアノ発表会」は、原則、全員参加です。まだ新しい年度がスタートしたばかりですが、発表会に向けて、始動する時期にもなっています。この夏も、生徒さん全員が大きな舞台を経て、大きく飛躍するよう、スタッフ一同、全力で指導にあたらせていただきます。

「ピアノ発表会」のくわしいご案内は、追ってお配りいたします。ご不明の点は、本部までお気軽にご質問ください【本部：03-5966-7711（担当・谷口）】。

その他のイベント日程に関しましても、スケジュール表でご確認ください。

## ◆アンデルセン先生が離日されました

客員教授のダイアン・アンデルセン先生が、3月のすべてのスケジュールを終え、離日されました。

プライベートレッスンにお申し込みくださった生徒さん、コンサートに足をお運びくださった皆さま、どうもありがとうございました。

アンデルセン先生の音楽は、今も胸に響きます。接した生徒さん方には、これからの音楽のお勉強に役立てていただけると信じます。

## ◆お月謝の引き落としについて

お月謝は、通常、前月末に引き落としさせていただいていますが、4月27日(木) (5月分)の引き落とし時に金額調整がどうしても間に合いません。

したがって、例年お願いしておりますように、4月分、5月分のお月謝は、いったん3月までの額で、引き落としさせていただきます。

5月以降、なるべく早く、新年度からのお月謝との過不足分の精算をさせていただきたいと思っております。どうかご了承ください。

## ◆今年のサクラ

今年は、近年めずらしく、音楽関係の受験生がお一人しかいらっしゃいませんでした。そのお一人が、見事、第一志望に合格を果たされ、一輪ながら大輪の花が咲いたことを、たいへん嬉しく思っております。

合格、おめでとうございます！

埼玉大学 教育学部 学校教科教員養成課程  
小学校コース 音楽専修 1名



\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp) 電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。(今年度より、月曜日の夜に行なっております。よろしくお願いたします)

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。